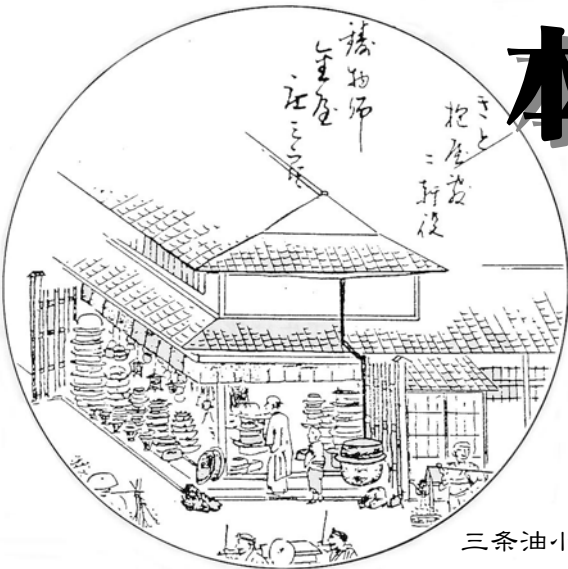


本能まちづくりニュース

第27号 平成17年4月20日発行

本能まちづくり委員会
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net
URL: http://www.honnoh.net



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

お披露目 本能ブランド“おべべee-monほんまもん”

恒例になりました春分の日「伝統産業の日」の取り組み『本ものに出会える日』を、3月20日に四条京町家を拠点に開催しました。例年通りの匠の技公開工房・マイキモノプロデュースに加えて、今回は念願であった「本能ブランド」着物の発表会をいたしました。

染めの町であるこの地域は多くの着物に携わる職人が工房を持ち、職住一体の町として和装の伝統文化を、伝統の技を、脈々と守ってまいりました。しかし最近の和装産業の衰退、着物離れ等で、我々地域の職人の中では、和装に対する危機感が高まり、事あるごとに地域の我々で出来る事は何かと、いろいろ模索してまいりました。

今回の「本能ブランド着物」もそうした話し合いの中から辿りついたものです。いろいろなアンケートでも、着物を着たい、着物で気軽に町歩きをしたいなど、着物に対するみなさんの思いが大きいことは現れています。やはり価格の問題とか、なかなか自分の思いの着物が無い、とかの不満が出ていました。

では我々が何か一石を投じてみては？との思

いから、地域の職人達で、手頃な価格で気軽に着られ、着る人が楽しめる着物や帯を19点制作し、今回の発表に至りました。

当日、会場の四条京町家には約400名の来場者があり、皆様にゆっくりと御覧いただけなかったのではないかと懸念でいっぱいでした。マイキモノプロデュースに参加の方も30名を上回り、本能ブランド着物の引き合いは34点を数えることになりました。



参加者で賑わう
マイキモノプロデュース

消費者から直に、いろいろなお考え・ご意見を賜り、我々も非常に参考になり、貴重な発表会となったことをご報告いたします。こういう時こそ我々地域の職人が何かを考え、意見を出し合い行動することが大切であると、改めて考えさせられた一日でした。

恒例の公開工房ツアーは、170名の参加を数え、関東地方はじめ地方からの参加者も多く、本能の地域になくはない取り組みになってきたのではないかと考えています。

「本能ブランド着物」の取り組みもこれで終わるのではなく、地道にこの地域で出来ることを今後も発信し続けたいと思っています。

着物制作にいろいろと携わっていただいた工房の皆様、工房を公開していただいた皆様、当日何かとお手伝いいただいたスタッフの方々に、紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

本もの推進会議 中村光雄



拠点 四条京町家で…



展示された「本能ブランド」
作品 “おべべ ee-monほんまもん”

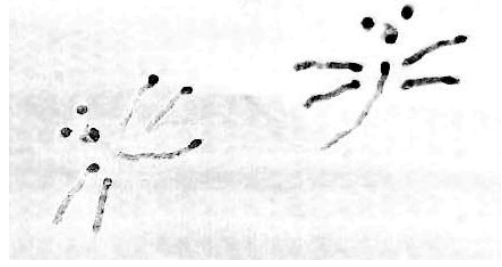
本能ブランド着物「京 散策」～制作者からのコメント



付け下げ「ひかえめ」 この着物は、ピンク色に染めた生地に、小さな丸・三角・四角形の模様を散りばめ、それを朱色の濃淡・緑・紫・白・金の計7色の糸で縫ったものです。

模様の大きさを「ひかえめ」にしたため、刺繍の部分が出しゃばらず、かわいさを感じになり、また7色の糸を使っているため、小さいながらも変化のある模様になっていると思います。

普段でも、ちょっと改まった席にでも、どちらでも着ていただけるような着物になれば、と思っています。片岡 信



名古屋帯「石塀小路」 雨上がりの京都祇園に花灯笼の明かりが灯る頃、石畳に写る明かりがあたり一面に広がり、光のファンタジーが花開きます。

純金泥と青金泥で、水たまりに光る彩りを、深々とした風景の中に明かりの温かみと光の美しさを、そして流れるような光彩を表現できればと思い、染帯は、生地地の地紋を石畳風に生かし、地色に紫茶地に染め、石畳に明かりが映る情景に仕上げました。

薄地色の着物とコーディネートしやすく、幾何学的で古典的な名古屋帯の作品です。きっと満足してお召しいただけるオリジナル品です。おしゃれな帯が出来上がりました。ステキな人に出会えたらいいですね。

高岡由充



訪問着「夜の梅」



地味なようで、モダンで派手な黒地に染め上げました。夜のイメージで、月の明かりに照らされた風景の中に梅の花が浮かびます。金泥使用で、少しキラキラすることで一層の輝きを表現してみました。花の形を横線のみで表現することにより、まるで刺繍した様にも見え、小さくてもきらびやかです。横線一本一本を離して描くことにより、風の動きと梅の花びらの優しさを感じさせ、ゆらゆらと水に浮かんだ花のようにも見えます。

オシャレで粋な、品格のある訪問着に出来上がりました。パーティーや夜会に映え、貴女のセンスが光る一品です。高岡由充



本能ブランドに貼付されるロゴシール



「さゆり」 この着物は引染の染色法では片身替り染の一種で、片身替り染とは着物を着た時に左右を別の色に暈し染めされた着物です。この暈し染めの特徴は縦方向にすっきり見えるため比較的長身に見えることで、小柄な人にも気楽に着ていただけたらと思います。

この片身替り染めは、安土桃山時代(約400年前)の能衣装や高台寺蒔絵などの片身替えと称した文様が始まりです。一般的に横方向の柄付けが多い着物の中では、少々斬新さが有ると言えるでしょう。

ちなみにこの着物の色目は、某家電メーカーのTVコマーシャルで女優吉永小百合さんの着ていた着物の地色を参考に染めてみました。よって、この着物の名称を「さゆり」とさせていただきます。 勝山一之

スリランカ被害の義援金の御礼とご挨拶

私アプハーミゲ、クマラシンハは昨年五月以来、本能学区・越後町に家族共々住まいを構え、地域の皆様には大変お世話になり今日に到っております。

昨年12月、母国スリランカの地震による津波の大災害を目の当たりにし、これからの世を担う子供達への教育事業の復旧に手助けをしようと思立ち、平野様はじめ岡山様、尾関様、沢田様、のご協力を基に、たくさんの方々から義援金のご厚情を賜りました。本能まちづくり委員会様からも多大のご支援金を頂きまして、ありがとうございました。皆様からお預りしました基金は、私が責任を持って壊れた学校の修復費として使わせていただきます。その経緯は多少時間が掛かるとは思いますが、後日皆様にご報告したいと思います。この度は、誠にありがとうございました。

A. Kumarasinha



クマラシンハさんは、来日10年。クマちゃんの愛称で地域に融けこんでおられ、区民運動会で活躍。今回の「本ものに出会える日」にもボランティアスタッフ

としてお手伝い下さいました。奥様は学校の先生です。地域からの義援金は既に27万5千円集まっています。

本能まちづくり委員会では、基金の趣旨に賛同し、今回のマイキモノプロデュースの収益金から2万5千円を寄付いたしました。50万円あれば学校が建つ、と言われる現地状況です。目標額に少しでも近づくよう、更に援助いただければありがたいです。義援金の受付は岡山悟氏(TEL221-6608)。よろしくお願ひします。N村

ご参加の皆様からメールが来ました!

本日はみなさまに大変お世話になりました、本当にありがとうございました。参加者一同、職人の皆さんのお話をお伺いしながら、感嘆の声を漏らし続けておりました。実際にその文化を背負っている職人の方々の思いを現場の空気の中で感じ取ることができたと思います。

また、私は地域のみなさまの協力体制と、学生の方々との連携、職人のみなさんご説明のわかりやすさに驚かされました。まちづくり活動の事例としても、大変勉強になりました。

また、機会があれば、ゆっくりとお話を聞かせていただければ嬉しく思います。今後ともどうぞ、よろしくお願ひいたします。取り急ぎ、お礼まで。 3月21日

NPO 京都ものづくり塾会員 矢杉 直也

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。 <http://www.honnoh.net>

し外れますが、まちづくりはどんなところでもつながっていくと思いますし、この一年で学ばせてもらった多くのことを、これからの人生に役立てていきたいと思っています。新4回生も、また一年いろいろとお世話になることと思いますが、どうか宜しくお願ひ致します。

ステキな着物の出来上がりを心待ちにしています。有難うございました。3月22日

京都府立大学 人間環境学部 宗田研究室4回生 吉田 治美

今回「本ものに出会える日」に参加させていただき、目の前で見える職人さんの確かな技術とこだわりに触れさせてもらいました。また準備作業や反省会を通して、本能学区にはいろんな人を暖かく受け入れる雰囲気があることを感じました。染めのまちとしての地域特徴が、まちづくりに活かされていることと、それを支えているのが、もともといらっしゃった方だけではなく、新しく入ってこられた方や若い方も含め、多様であるという、この二つが本能のまちづくりのミソだということを感じました。今後ともよろしくお願ひします。3月30日

同志社大学 社会学専攻博士後期課程 田中 志敬

昨日はいろいろとありがとうございました。

私は、去年から3回、「おいでやす染のまち本能」や「本ものに出会える日」に参加させていただいて、着物に対する興味や、伝統産業のすばらしさを感じることができるようになり、このような機会を設けて続けていらっしゃる、西嶋さんをはじめ、本能の方々に、感謝と敬意を感じています。専門がまちづくりからは少

学区情報

「本能ひなまつり」

3月12日(土)、本能仮設会議室において「本能ひなまつり」(本能社会福祉協議会主催、少年補導委員会協力)が開催され、学区内の独り暮らしのお年寄りと、子供達が集いました。何と100名近くの参加者に、外の寒さも吹き飛ばすほど



まるで「本もの」のお雛様を前に(壺屋町坂本雅彦氏作)



自分の身は自分で守ろう～防災訓練～

3月21日、本能公園で、本能自主防災会主催の本能学区総合防災訓練が行われました。インド洋大津波や福岡西方沖地震直後のことで、災害はいつ自分の身にふりかかるかわからない、という思いで参加した方も多かったと思います。

訓示では、災害発生直後においては、公的機関の対応は不可能に近く、阪神大震災の時、自分で逃げた41%・近所の人に助けてもらった45%・消防、警察に救助された4%という数字が物語るように、自分達自身で災害に対処しなければなりません。テレビの映像に写るのは2～3時間後の状態。それまでの間が苦しく、ご近所同士で助け合って生き延びなければならぬ、ということでした。

日頃から災害に対応できるよう知識と技能を身につけ、準備しておきたいものです。

今回の内容は以下のようなものです。①消火器を使った消火訓練。消火器の操作法と鎮火のコツをおそわりました。②三角巾の使い方。止血法、腕の吊り方、頭部の巻き方、しっかり結んで解きやすい本結びを学びました。[写真左]



③ロープの結び方。窓やベランダから逃げる時、ぶら

の、熱気あふれる楽しいひとときでした。

手話サークルの方々と“うれしいひなまつり”の歌を唱和した後、ボランティアコーディネーター・澤田先生の指導のもと、「かんたん体操」「能力アップクイズ」「おりがみ(お雛様を作って持ち帰りました)」という、全身フル活用のゲームタイムがもたれました。また「青い山脈」と「世界でひとつだけの花」も合いました。手話サークルの方々は「世界でひとつだけの花」を、『中京区民文化フェスティバル』で舞台発表されたそうです。手話とともに歌詞をなぞると一層味わいのある内容でした。

このあと、お雛祭りらしく「ちらし寿司・蛤のおつゆ」をいただき、ビンゴゲームでお開きとなりました。

雨が降ったり止んだりの天候の中でしたが、皆様々な思い出を心に抱いた、春の訪れを感じる行事でした。(あ)



下がってもほどけない括り付け方です。[写真左]④防災用具の使用法。学区の備品が収納されている防災器具庫は、新施設完成まで本能公園に移動、設置されています。家庭にある竿

と毛布で担架が作れます。⑤アルファ米非常食の炊き出し。一箱50人分セット。水でも作れますが、熱湯8Lあれば30分で出来ます。米と具をよく混ぜ蒸らすこと。何度か体験した非常食ですが、だんだん美味しくなっているようでした。⑥集団避難について。日頃からのご近所付き合いこそ大切。非常時に単独行動は避けましょう。まず町内ごとに集まって、自主防災委員(防災部長)の指示に従い、新体育館→二条城(中京区広域避難所)に移動することになります。本能自主防災会会長・消防分団団長の指揮に必ず従ってください。町内・学区ごとの統制のとれた行動が避難所の運営を円滑にします。⑦防災用具・備品の購入や問い合わせは、京都市消防設備協会 TEL231-7601へ。いろいろ相談にのってもらえます。

見ているだけより、やはり触って見た方がわかりやすいです。暖かい好天に恵まれ、中京消防署・本能消防分団の方々の熱のこもったお話とご指導で、楽しく体験できました。皆様、ありがとうございました。(N村)

本能まちづくり委員会 次回開催のお知らせ

平成17年5月9日(月)午後7時から

TOWER 観 HOUSE 2階

西堀川通四条上る

会場が変更になっています。ご注意ください!!

編集後記

◎今年も本能の桜が咲きました。無機質な工事現場でも、心が和みます。N村

◎近頃三条通で着物姿の女性をよく見かけます。いいものでねエ～ MO

◎「みんなと同じようなもの」、「みんなと違ったもの」。着物選びも二極化時代ようです。(ゆ)

◎今回は公開工房、ひなまつり、避難訓練と学区に関連のある行事が続き、本能学区の地域力を再発見。(あ)